

やんばる国立公園

指 定 書
及 び
公 園 計 画 書

平成28年9月15日

環 境 省

やんばる国立公園

指 定 書

平成28年9月15日

環 境 省

目次

1	やんばる国立公園の指定理由	1
2	地域の概要	3
(1)	景観の特性	3
ア	地形、地質	3
イ	植生	3
ウ	野生動植物	4
エ	海域	7
オ	自然現象	7
カ	人文景観	7
(2)	利用の現況	8
(3)	社会経済的背景	8
ア	土地所有別	8
イ	人口及び産業	8
ウ	権利制限関係	10
3	公園区域	14

1 やんばる国立公園の指定理由

①景観（同一風景中、我が国の風景を代表する傑出した自然の風景地）

沖縄島北部地域には、世界的にも数少ない国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育し、石灰岩の海食崖やカルスト地形、マングローブ林など多様な自然環境を有している。日本のわずか0.1%にも満たない地域において、山地丘陵、石灰岩のカルスト地形、溪流などの変化に富んだ地形・地質がみられ、亜熱帯照葉樹林に適応した動植物の種の多様性は非常に高く、固有種や遺存固有種、世界的にも絶滅のおそれのある重要な野生生物が集中して分布する特徴的な生態系が形成されている。琉球列島はトカラ海峡とケラマ海峡を境として「北琉球」「中琉球」「南琉球」に区分され、中琉球には奄美群島と沖縄諸島が属する。この地域には共通する種や近縁種が分布するものの、沖縄島北部地域にはヤンバルクイナやノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなど奄美群島には生息しない当該地域に特徴的な固有種や、リュウキュウヤマガメなど沖縄諸島にしか分布しない種、当該地域を北限とする種が多いなど、奄美群島とは異なる生態系が形成されている。

近年、照葉樹林については、様々な野生動植物が生息・生育し、その雰囲気を感じられる豊かな生態系を有するすぐれた自然の風景地として、国立公園として評価することが求められている（「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言」平成19年3月）。また、沖縄島北部地域については、平成22年度の国立・国定公園総点検事業において、我が国を代表する傑出した地域として新規に国立公園の指定を行う候補地として選定された。

そして、現在、沖縄島北部地域のうち、多くの固有種が生息・生育し、まとまりある森林が比較的健全な状態で残る地域は、^{くにがみそん}国頭村、^{おおぎみそん}大宜味村、^{ひがしそん}東村の一带（以下、「やんばる地域」という。）となっている。

以上より、やんばる地域は、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に多くの固有種が集中して分布する国内最大規模の亜熱帯照葉樹林の生態系を中心として、高湿度の山地に発達する雲霧林、溪流植物群落などの河川生態系、石灰岩地特有の動植物、マングローブ生態系といった多様な生態系が複合的に一体となった景観を風景形式とした、我が国を代表する傑出した地域である。

②規模（区域面積が原則として1万ha以上（島嶼））

本国立公園の区域面積は13,622 ha（陸域）である。

③自然性（原生的な景観核心地域が原則として約2,000ha以上）

本国立公園の原生的な景観核心地域は、^{いぶだけ}伊部岳周辺、^{にしめだけ}西銘岳周辺の一带、^{よなはだけ}与那覇岳、^{へどだけ}辺戸岳や脊梁山^{だけ}地、^{だけ}ネクマチチ岳周辺、^{へどみき}辺戸岬などであり、その合計区域面積は5,195 haである。

<参考：特別保護地区：789 ha、第1種特別地域：4,406 ha>

④利用（大人数による利用が可能）

景勝地や観光地めぐり、亜熱帯照葉樹林の散策、カヌー体験、川遊び、海水浴や海浜でのキャンプなどが行われている。そのほか、ヤンバルクイナやノグチゲラなどのやんばる地域の生き物観察を目的とした利用も行われており、利用性に富んでいる。

⑤地域社会の共存（地域社会の理解の獲得）

住民説明会の開催や関係市町村の同意を経て、指定するものである。

以上、「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定要領（平成25年5月17日付け環自国発第1305171号 環境省自然環境局長通知）」に記載される要件を満たすことから、本地域を国立公園に指定する。

また、本国立公園のテーマを「亜熱帯の森やんばる－多様な生命(いのち)育む山と人々の営み」とし、多種多様な固有又は希少な動植物が生息・生育する生態系を保全し、これらの自然をおそれ敬うと同時に豊かな恵みを享受しながら育まれてきた地域のくらしと文化の維持継承に寄与し、豊かな生物多様性と独特な亜熱帯森林生態系を実感できる国立公園を目指す。

なお、既に沖縄海岸国定公園に指定されている地域の一部は本国立公園に編入する。

2 地域の概要

やんばる地域は沖縄島北部に位置し、3村（国頭村、大宜味村、東村）の合計面積（340 km²）は沖縄島の約28%を占めている。

やんばる地域は琉球諸島の一部として、生物地理区としては、植物相は旧熱帯区系界に属し、東南アジア区系区に分類される。動物地理区でみると旧北区と東洋区の移行帯域として東洋区要素をもつ地域となっている。

沖縄島が属する琉球列島は、約1500万年前から約170万年の間に急速に進行した、プレート移動や地殻変動による隆起や沈降、気候変動に伴う海水準の変動などを経て形成された。この地殻変動によりユーラシア大陸から分離されるとともに、海水準の変動も加わり近隣島嶼の間で分離・結合を繰り返してきた。

大陸と陸続きに移動した生物が、島の形成過程により取り残され隔離された結果、近隣地域で近縁種が絶滅したり、近縁種と比較して原始的な形質をもつ遺存固有種がみられる。

(1) 景観の特性

ア 地形・地質

やんばる地域は、沖縄島の北部に位置する北東－南西方向に細長い地域（南北約32km、東西約12km）である。沖縄島最高峰の与那覇岳（503m）を有し、西銘岳や伊湯岳など明瞭なピークを持たない標高400m前後の非石灰岩の山地が、島の中央部に島軸に沿って発達し、脊梁山地をなしている。

山地の周辺には標高200m以上の丘陵が広がり、山地や丘陵を分断するように小面積の台地・段丘が様々な高度で広範囲に分布している。降雨が地表の岩石を削った結果、谷間や丘陵・山地の発達する起伏に富んだ山地地形が形成され、これらの地形を東西方向に河川が流れている。低地は少なく、河川の下流のみに分布する。

脊梁山地を主に形成するのは白亜系から第三系の千枚岩と砂岩（名護層・嘉陽層）である。辺戸岳一帯、ネクマチヂ岳一帯にはカルスト地形を形成している古生層石灰岩が分布している。また、辺戸岬には石灰岩の海食崖が見られ、一気に水深200mの深さに達している。

イ 植生

やんばる地域における森林率は80.5%である。やんばる地域で最も広い面積を占めている自然植生は、山地の酸性土壌に発達するスダジイやオキナワウラジロガシなどのブナ科植物で代表される亜熱帯常緑広葉樹林である。中でも、オキナワシキミースダジイ群集が全体の約4割を占めている。次いで、ヤブツバキクラス域代償植生の常緑広葉樹二次林のギョクシンカースダジイ群集18.9%、常緑針葉樹林二次林のリウキュウマツ群落12.3%が占める。古生層石灰岩上には、自然林のナガミボチョウジ－リウキュウガキ群落が分布している。そのほか、小面積であるが特徴的な植生としては、国頭村ではオキナワウラジロガシ群集、ソテツ群落、モリヘゴ群落、大宜味村ではアマミアラカシ群落、東村ではマングローブ群落

などが見られる。

やんばる地域の森林は、琉球王府時代より建築や造船の用材、薪、木炭といった沖縄の森林資源の供給地としての役割を担い、その多くが過去に人の手が入ったことのある森であり、現在も沖縄県における林業・林産業の拠点となっている。伊部岳から西銘岳までの一帯は、多くが昭和10年代以降伐採されていない自然林である。亜熱帯常緑広葉樹林は、伐採されると切り株からの萌芽、種子の発芽により速やかに広葉樹林に回復する。農地等が放置されるとススキ草原を経てイジュやリュウキュウマツが優占する二次林となり、長い時間をかけて自然林へと戻る。また、リュウキュウマツ群落はこのような遷移途中の二次林と、人工林によるものを含む。

やんばる地域の森林に民有林が占める割合は72.6%である。民有林立木地の82.7%を占める天然林のうち広葉樹は85.9%であり、スダジイ、オキナワウラジロガシ、イスノキ等が主である。人工林のうち広葉樹は38.1%を占め、リュウキュウマツ、イヌマキ等の針葉樹が主体となっている。天然林のうち育成複層林は18.1%を占め、人の手により維持する施業が行われている。

ウ 野生動植物

やんばる地域の森林には、オキナワトゲネズミ、ケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、クロイトカゲモドキ、オキナワイシカワガエル、ヤンバルテナガコガネなどのやんばる地域固有もしくは琉球諸島固有など当該地域に特徴的な生き物が生息している。与那覇岳などの一部高標高地では雲霧林が発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存在する。河川上流から中流の溪流沿いには、熱帯・亜熱帯に特徴的な溪流植物が分布し、さらに当該地域に固有な両生類の産卵・生息環境にもなっている。

スダジイやオキナワウラジロガシなどの広葉樹は成長して大径化が進むと、幹に空洞ができ、さらに年月を経ると樹洞ができる。これらの環境は、ノグチゲラやケナガネズミ、ヤンバルテナガコガネ等に利用され、これらの生物は大径木が多く生育する森林に依存している。

①動物

i) 哺乳類

やんばる地域に生息する陸生哺乳類は15種で、このうち11種が在来種である（当山昌直(1993)、沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）における貴重動物の生息分布 特殊鳥類等生息環境調査VI（沖縄県））。

在来種のうち、オキナワトゲネズミは沖縄島の固有種、ケナガネズミ、ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリが沖縄島と奄美群島の固有種、リュウキュウユビナガコウモリが奄美大島以南の南西諸島固有種である。このうち、オキナワトゲネズミとケナガネズミは遺存固有種である。

環境省の第4次レッドリストには絶滅危惧種として7種が掲載されている。オキナワト

ゲネズミ（絶滅危惧ⅠA類）は、1946年にアマミトゲネズミの亜種として発見され、その後、1989年に新種として位置づけられた。2001年以降は生息情報がなく、絶滅が懸念されていたが、2008年に西銘岳周辺において、30年ぶりの捕獲による生息確認があった。現在は、やんばる地域内のごく限られた狭いエリアにしか生息していない。ヤンバルホオヒゲコウモリ（絶滅危惧ⅠA類）、リュウキュウテングコウモリ（絶滅危惧ⅠB類）は、1998年にやんばる地域で初めて発見されたコウモリである。

ファイリマングースは1910年に那覇市近郊で放たれた外来種で、その後、分布域が北上し、1960年代に名護市で頻繁に目撃されるようになり、1993年には大宜味村塩屋と東村平良を結ぶラインまで北上した。本種の分布拡大に伴い、ヤンバルクイナなどの分布域の縮小や生息数の減少が確認され、2000年からやんばる地域で捕獲事業が行われている。また、ペット由来によるノネコによりオキナワトゲネズミ、ケナガネズミ（絶滅危惧ⅠB類）、ヤンバルクイナ等への捕食の影響がある。

ii) 鳥類

やんばる地域において1992年までに確認された鳥類は155種で、このうち留鳥は40種であり、そのうち38種が在来種である（高原建二(1993)、沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）の鳥類について 特殊鳥類等生息環境調査Ⅵ（沖縄県））。留鳥の占める割合は4分の1であり、渡り鳥の占める割合が多いことが特徴である。国内には633種の鳥類が自然分布する（日本鳥類目録 改定第7板（2012 日本鳥学会））ことから、国土面積の0.1%に満たない本地域において、その約4分の1の種数が確認できることになる。また、環境省第4次レッドリストには留鳥のうち12種が記載されている。

沖縄島固有の鳥類として、ノグチゲラ（絶滅危惧ⅠA類）とヤンバルクイナ（絶滅危惧ⅠA類）があげられる。ノグチゲラは、1987年に新種として発表され明治時代以前は沖縄島中部の恩納村まで生息していたとされるが、その後、生息域は狭くなり、現在の主な生息地は、大宜味村塩屋と東村平良を結ぶライン以北である。ヤンバルクイナは1981年に新種記載された鳥類で、国内唯一の無飛力の鳥である。1980年代後半には大宜味村塩屋から東村平良以南にも生息が確認されたが、生息の南限はそれ以後徐々に北上し、2004年には国頭村与那以北まで狭まったが、マングースの防除が進むとともに徐々に生息域は回復傾向にあり、現在、低密度ながら大宜味村大保ダムから東村福地ダム付近まで分布が確認されている。

iii) 両生類・は虫類

やんばる地域に在来の陸生は虫類は17種、在来の両生類は12種生息し、日本に生息する陸生は虫類・両生類のそれぞれ約2割の種に相当する（当山昌直1993、沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）における貴重動物の生息分布）。環境省の第4次レッドリストには絶滅危惧種として、陸生は虫類が4種、両生類が5種記載されている。

両生類における沖縄島もしくは沖縄諸島の固有種は、オキナワイシカワガエル（絶滅危惧ⅠB類）、ナミエガエル（絶滅危惧ⅠB類）、ホルストガエル（絶滅危惧ⅠB類）、ハナサキガエル（絶滅危惧Ⅱ類）、リュウキュウアカガエルであり、生息域の減少などによりやんばる地域が主な生息地となっている。イボイモリ（絶滅危惧Ⅱ類）、ナミエガエル、オキナワイシカワガエル、ホルストガエルは遺存種である。なお、近年の研究により2011年にはイシカワガエルがオキナワイシカワガエルとアマミイシカワガエルの2種に、リュウキュウアカガエルがリュウキュウアカガエルとアマミアカガエルの2種に分類されている。

分布の特殊性があるは虫類はリュウキュウヤマガメ（絶滅危惧Ⅱ類）、クロイワトカゲモドキ（絶滅危惧Ⅱ類）であり、いずれも遺存種である。このうち、クロイワトカゲモドキは奄美・沖縄諸島のなかで地理的に細かく分化し、亜種も含めると5種に分化している。

やんばる地域の砂浜には3種のウミガメ類が上陸・産卵し、多い年には年間700回以上の上陸と500回以上の産卵が確認されている。その産卵数の8割がアオウミガメ、2割がアカウミガメである（平成22年度沖縄島北部地域におけるウミガメ類の生息実態調査業務）。タイマイの上陸・産卵はまれである。

iv) 魚類

沖縄島で記録されている陸水性魚類は、42科116属173種というデータがある（東海大学出版会、琉球列島の陸水生物 p.37）。これらの魚類は、生活史の中で河川と海を使う回遊性のものと、一時的に汽水域や淡水域に侵入してくるものがほとんどであり、純淡水性の種は少ない。アオバラヨシノボリは、沖縄島北部の固有種である。

沖縄島北部に生息していた沖縄島と奄美大島の固有亜種であるリュウキュウアユは、沖縄島では1970年代末で絶滅し、現在は放流された奄美大島産のものが定着している。

v) 昆虫類

沖縄島からは4,169種が記録され、やんばる地域には2,900種以上とされている（東清二、沖縄昆虫誌 p37（2002年琉球列島産昆虫目録）、1987年沖縄産昆虫目録、1990年沖縄生物学会誌、やんばるの昆虫、東清二、1989年昭和62年度沖縄島北部地域調査報告書）。今後も、多くの新記載種などが予想される。また、沖縄諸島もしくは琉球列島の固有種519種がやんばる地域に分布する。

日本最大の甲虫であるヤンバルテネガコガネは、やんばる地域のみで生息する遺存固有種である。大木の樹洞（うろ）に生息し、幼虫はそこに堆積する腐食物を摂食して成長する。現在、生育に適したうろのある高齢木が少なく密猟も疑われることから、絶滅が危惧されている。

やんばる地域の自然林は階層構造が発達し、個体数は多くないものの生息する種数は豊富とされ、湿度が高い環境を好む種が生息している。一方で、二次林は種数は多くないものの個体数は多いとされ、開けて明るく乾燥した環境を好む種（カメムシ、バッタ、コオロギな

ど) が生息する。

②植物

やんばる地域に自生する維管束植物は1,282種とされ、このうち、沖縄島の固有種でやんばる地域に主に分布するものはクニガミサンショウヅル、クニガミヒサカキ、コバノミヤマノボタン、オキナワヒメナキリ、ホシザキシヤクジョウ、オキナワセッコク、クニガミトンボソウなどである。

やんばる地域の植物種は、大陸系、北方系、南方系の種が混在し、分布の南限となる種を多く含み、多くの固有種を有していることが特徴である。また、与那覇岳上部の雲霧林では、地生や着生のラン科植物やシダ植物が豊富に存在し、多様性が高い。山地の溪流部には増水時に急流にさらされる環境に適応して、葉が流線型や矮小化した溪流植物が分布し、大陸系・北方系の種の保存に重要な場所となっている(1990年沖縄生物学会誌、山原の植生の特徴と保護、宮城康一、1984年監修 池原貞雄、初島住彦、沖縄の生物、1988年新城和治、宮城康一、沖縄島国頭地域の植物相)。

エ 海域

やんばる地域の沿岸部には裾礁が形成されている。

砂浜はウミガメの産卵地になっており、春から夏にかけて、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイが上陸、産卵する。

辺戸岬では、1月から4月にかけて、南下もしくは北上するザトウクジラを観察できる。

オ 自然現象

国頭村奥^{おく}では年間降水量の平年値が2501.5mm、年平均気温の平年値が20.7℃となっている。なお、山地では平地に比べて降水量が多く、与那覇岳では、平均3,000mm以上である(気象庁ホームページ)。

当該地域には台風が年間平均7件程度襲来し、たびたび暴風と豪雨によるかく乱が生じている。

カ 人文景観

琉球王府時代から近年まで、やんばる地域は薪炭や都城の建設・船などの用材となる林産物の生産・供給の場として重要な役割を果たし、昭和に入るまでは海上輸送が主流で、沖縄島中南部との間で「山原船」による交易が盛んに行われた。国頭から首里王府へ重い材木を多人数で運ぶ時の歌は、クンジャンサバクイ(国頭木遣音頭)として伝えられている。山で薪炭や琉球藍づくりなどの生業が営まれていた名残として、現在も各所に、炭窯や藍つぼの跡が残る。

海と山に囲まれたやんばる地域の集落では、海と山を一体として捉え、一つの空間から自然の恵みを受けているという空間認識が見られる。それを特徴づけるのが祭祀で、集落の邪気を

払い豊作・豊漁を祈願するシヌグや海神（ウンジャミ・ウンガミ）祭などはこれを象徴的に表している。このような祭祀は集落の伝統として受け継がれ、国頭村^{あだ}安田のシヌグ、大宜味村塩屋湾のウンガミが国指定重要無形民俗文化財に指定されている。

（２）利用の現況

沖縄県における平成 25 年度の国内入域観光客数（県外から県内へ入ってきた国内客人数）は 595 万 3,100 人（平成 25 年度沖縄県入域観光客統計概況（沖縄県））で、同じ期間における国内客のやんばる地域への訪問率は 8.2%となっており、単純に計算すると、やんばる地域の国内訪問者は 49 万人と想定される。同じ期間のやんばる地域への宿泊率は 2.7%であり、やんばる地域への訪問者のうち 7 割がやんばる地域外への宿泊による日帰り利用となっている（平成 25 年度観光統計実態調査報告書）。

また、やんばる地域は沖縄島中南部地域にはない森・川・海を楽しむための県民の手頃なレジャー先にもなっており、やんばる野生生物保護センターの利用者でも、半数近くが中南部地域からの利用者となっている。

利用形態は、辺戸岬^{ひじおおたき}や比地大滝などの景勝地や観光地めぐり、与那覇岳やネクマチヂ岳などの亜熱帯照葉樹林の散策、東村慶佐次のマングローブや安波^{あは}ダムなどのダム湖を利用したカヌー体験、川遊び、海水浴や海浜でのキャンプなどが行われている。そのほか、ヤンバルクイナやノグチゲラなどのやんばる地域の生き物観察を目的とした利用も行われている。

（３）社会経済的背景

ア 土地所有別

本区域は、公園区域 13,622 ha（陸域）のうち、国有地 2,937 ha（21.6%）、公有地 7,672 ha（56.3%）、私有地等 3,013ha（22.1%）であり、公有地の本区域を占める割合が大きい。

イ 人口及び産業

やんばる地域の人口は、平成 26 年 6 月時点で 9,762 人である。村別に見ると、国頭村 4,906 人、大宜味村 3,139 人、東村 1,717 人であり、いずれの村も減少傾向にある。年齢構成は、15 歳未満 12.8%、15～64 歳 58.9%、65 歳以上 28.3%となっており（平成 22 年国勢調査）、全国平均に比べて 65 歳以上の割合が高い。

表 1 人口の推移（国勢調査）

	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 26 年
国頭村	6,510	6,114	6,015	5,825	5,546	5,188	4,906
大宜味村	3,567	3,513	3,437	3,281	3,371	3,221	3,139
東村	2,134	1,891	1,963	1,861	1,812	1,794	1,717

3村合計	12,211	11,518	11,415	10,967	10,729	10,203	9,762
------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------

※平成26年は各村資料による。

表2 年齢別人口（平成22年国勢調査）

	総数 人口	15歳未満 人口	15～64歳 人口	65歳以上 人口
国頭村	5,188	697 (13.4%)	3,062 (59.0%)	1,429 (27.5%)
大宜味村	3,221	361 (11.2%)	1,867 (58.0%)	993 (30.8%)
東村	1,794	247 (13.8%)	1,083 (60.4%)	464 (25.9%)
合計	10,203	1,305 (12.8%)	6,012 (58.9%)	2,886 (28.3%)
全国平均 (%)		13.2%	63.8%	23.0%

やんばる地域の就業者総数は4,524人で、産業別就業者数の割合では第3次産業(59%)の割合が高く、第1次産業(25.6%)、第2次産業(15.4%)の割合を上回っている(平成22年国勢調査)。

表3 産業別就業者数

平成22年	第1次産業		第2次産業		第3次産業		就業者総数
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	
国頭村	463	19.9	330	14.1	1,538	66.0	2,331
大宜味村	289	22.8	254	20.0	725	57.2	1,268
東村	406	43.9	112	12.1	407	44.0	925
合計	1,158	25.6	696	15.4	2,670	59.0	4,524

やんばる地域の純生産額は18,293百万円で、第1次産業2,858百万円(15.6%)、第2次産業4,061百万円(22.2%)、第3次産業11,374百万円(62.2%)である(平成24年度沖縄県市町村民所得)。第1次産業生産額のうち農業が95.3%を占め、畜産(豚)やパインアップル生産等が盛んである。林業は第1次産業生産額の2.4%を占め、広葉樹チップや支柱材生産の他、特用林産物等が生産されており沖縄県における林業・林産業の拠点となっている。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種 類	位 置	重複面積(ha)	指定年月日
水源かん養	沖縄県国頭郡東村地内	334	S57. 5. 13

(公有林)

種 類	位 置	重複面積(ha)	指定年月日
水源かん養	沖縄県国頭郡国頭村地内	17	昭39. 8. 28
	沖縄県国頭郡大宜味村地内	828	昭46. 12. 7
	沖縄県国頭郡東村地内	176	昭55. 7. 7等
潮害防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	5	昭35. 6. 3
土砂崩壊防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	39	昭46. 12. 7
風致	沖縄県国頭郡大宜味村地内	2	昭50. 4. 24
防風	沖縄県国頭郡国頭村地内	0.02	昭33. 10. 21
	沖縄県国頭郡大宜味村地内	2	昭50. 4. 24等

(民有林)

種 類	位 置	重複面積(ha)	指定年月日
潮害防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	23	昭35. 6. 3
			昭62. 1. 6 平1. 10. 6等
土砂崩壊防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	9	昭46. 12. 7
土砂流出防備	沖縄県国頭郡国頭村地内	26	平5. 5. 20等

(イ) 鳥獣保護区

名 称	位 置	重複面積(ha)	当初指定年月日
国指定やんばる(安田)鳥獣保護区(特別保護地区)	沖縄県国頭郡国頭村地内	1,279 (220)	平21. 11. 1
国指定やんばる(安波)鳥獣保護区	沖縄県国頭郡国頭村地内	465	平21. 11. 1
県指定西銘岳鳥獣保護区(特別保護地区)	沖縄県国頭郡国頭村地内	84 (30)	昭60. 6. 18
県指定 ^{きて} 佐手鳥獣保護区	沖縄県国頭郡国頭村地内	158	昭40. 6. 22

(特別保護地区)		(58)	
県指定与那覇岳鳥獣保護区(特別保護地区)	沖縄県国頭郡国頭村地内	666	昭60. 6. 18
県指定大保鳥獣保護区	沖縄県国頭郡大宜味村地内	(23) 240	昭49. 11. 14

(ウ) 史跡名勝天然記念物

区 分	名 称	位 置	指定年月日
国指定史跡	宇佐浜遺跡 <small>うさばま</small>	沖縄県国頭郡 国頭村字宇佐浜	昭47. 5. 15
国指定特別天然記念物	ノグチゲラ	地域を定めず指定	昭52. 3. 15
国指定天然記念物	アカヒゲ	地域を定めず指定	昭45. 1. 23
国指定天然記念物	オカヤドカリ	地域を定めず指定	昭45. 11. 12
国指定天然記念物	カラスバト	地域を定めず指定	昭46. 5. 19
国指定天然記念物	ジュゴン	地域を定めず指定	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	ケナガネズミ	地域を定めず指定	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	トゲネズミ	地域を定めず指定	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	カンムリウミスズメ	地域を定めず指定	昭50. 6. 26
国指定天然記念物	イイジマムシクイ	地域を定めず指定	昭50. 6. 26
国指定天然記念物	リュウキュウヤマガメ	地域を定めず指定	昭50. 6. 26
国指定天然記念物	ヤンバルクイナ	地域を定めず指定	昭57. 12. 18
国指定天然記念物	ヤンバルテナゴコガネ	地域を定めず指定	昭60. 5. 14
国指定天然記念物	安波のタナガームイの植物群落	沖縄県国頭郡 国頭村字安波	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	田港御願 <small>たみなとうが</small> の植物群落	沖縄県国頭郡大宜味村 字田港御神上原	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	慶佐次湾 <small>げさしわん</small> のヒルギ林	沖縄県国頭郡 東村字慶佐次港原	昭47. 5. 15
国指定天然記念物	与那覇岳天然保護区域	沖縄県国頭郡 国頭村字奥間、字比地	昭47. 5. 15
県指定天然記念物	フタオチョウ	地域を定めず指定	昭44. 8. 26
県指定天然記念物	コノハチョウ	地域を定めず指定	昭44. 8. 26
県指定天然記念物	イボイモリ	地域を定めず指定	昭53. 11. 9
県指定天然記念物	クロイワトカゲモドキ (マダラトカゲモドキも含)	地域を定めず指定	昭53. 11. 9

	む)		
県指定天然記念物	ホルストガエル	地域を定めず指定	昭60. 3. 29
県指定天然記念物	ナミエガエル	地域を定めず指定	昭60. 3. 29
県指定天然記念物	イシカワガエル	地域を定めず指定	昭60. 3. 29
県指定天然記念物	アマミヤマシギ	地域を定めず指定	平6. 2. 4
県指定天然記念物	安波のサキシマスオウノキ	沖縄県国頭郡 国頭村字安波	昭34. 12. 16
県指定天然記念物	大宜味御嶽のビロウ群落	沖縄県国頭郡 大宜味村字大宜味	昭49. 2. 22
県指定天然記念物	比地の小玉森の植物群落	沖縄県国頭郡 国頭村字比地49	平3. 4. 2
県指定天然記念物	喜如嘉板敷海岸の板干瀬	沖縄県国頭郡 大宜味村喜如嘉	昭49. 2. 22
村指定天然記念物	安田のアカテツ保安林	沖縄県国頭郡国頭村字 安田115、133-1、193	昭58. 3. 31
村指定天然記念物	塩屋ウブンチャのハスノハ ギリ	沖縄県国頭郡大宜味村 字塩屋594番地	平19. 3
村指定天然記念物	サキシマスオウノキ	沖縄県国頭郡 東村字川田下福地260	昭59. 3. 22
村指定天然記念物	オガタマノキ	沖縄県国頭郡 東村字有銘29-1	平13. 1. 30

(エ) その他

(海岸保全区域)

名 称	位 置	重複延長 (m)	指定年月日
辺戸海岸	沖縄県国頭郡国頭村字辺戸地内	595	昭50. 11. 27
奥世波原海岸	沖縄県国頭郡国頭村字奥地内	560	昭50. 11. 27
奥港	沖縄県国頭郡国頭村字奥地内	511	昭59. 10. 30
楚洲 1	沖縄県国頭郡国頭村字楚洲地内	660	昭62. 5. 12
楚洲 2	沖縄県国頭郡国頭村字楚洲地内	578	昭62. 5. 12
安田漁港海岸	沖縄県国頭郡国頭村字安田地内	620	平18. 12. 8
安波海岸	沖縄県国頭郡国頭村字安波地内	243	昭50. 11. 27
津波海岸	沖縄県国頭郡大宜味村字津波地 内	1, 015	昭40. 4. 6

津波海岸	沖縄県国頭郡大宜味村字津波地内	1,200	昭55. 1. 28
塩屋港	沖縄県国頭郡大宜味村字塩屋地内	171	昭61. 6. 13
塩屋港	沖縄県国頭郡大宜味村字塩屋地内	658	昭62. 10. 30
塩屋漁港海岸	沖縄県国頭郡大宜味村塩屋地内	687	昭40. 12. 21

(河川区域 (2級河川))

名 称	位 置	重複延長 (km)
与那川	沖縄県国頭郡国頭村字与那以下海に至る	1.8
辺野喜川	沖縄県国頭郡国頭村字辺野喜以下海に至る	5.0
安波川	沖縄県国頭郡国頭村字安波以下海に至る	4.4
普久川	沖縄県国頭郡国頭村字伊部以下安波川落合に至る	1.5
比地川	沖縄県国頭郡国頭村字比地以下海に至る	5.1
奥間川	沖縄県国頭郡国頭村字奥間以下比地川合流点まで	4.0
奥川	沖縄県国頭郡国頭村字奥仲田原1037番地先から海に至る	2.0
福地川	沖縄県国頭郡東村高江高江原466-1地先から海に至る	0.1
新川	沖縄県国頭郡東村字高江高江原466番地先から海に至る	3.3
大保川	沖縄県国頭郡大宜味字饒波山1321番地先から海に至る	4.3
田嘉里川	沖縄県国頭郡大宜味村字田嘉里赤又原1712番地先から海に至る	2.1

3 公園区域

やんばる国立公園の区域を、次のとおりとする。

(表1：公園区域(陸域)表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 40 林班、48 林班から 53 林班まで、55 林班、56 林班、58 林班、59 林班及び 62 林班の全部並びに 41 林班、45 林班、54 林班、57 林班、60 林班及び 61 林班の各一部 国頭郡国頭村 字安田、字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、字宜名真、字佐手、字謝敷、字楚洲、字浜、字比地、字辺戸、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部	10,268 国 2,774 公 5,296 私 2,016 不 182
	国頭郡大宜味村 字上原、字大兼久、字大宜味、字押川、字喜如嘉、字塩屋、字謝名城、字白浜、字大保、字田嘉里、字田港、字津波、字饒波、字根路銘、字宮城及び字屋古の各一部	2,564 国 51 公 1,857 私 573 不 83
	国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 2 林班の一部 国頭郡東村 字有銘、字川田、字慶佐次、字平良、字高江及び字宮城の各一部	790 国 112 公 519 私 140 不 19
	これら地域の地先海岸、地先島嶼及び地先岩礁を含む。	
合計		13,622 国 2,937 公 7,672 私 2,729 不 284

(表2：公園区域(海域)表)

区 域	面 積 (ha)
沖縄県 国頭郡国頭村、大宜味村及び東村の地先海面の一部	3,670

やんばる国立公園

公園計画書

平成28年9月15日

環境省

目次

1	基本方針	1
2	規制計画	4
(1)	保護規制計画及び関連事項	4
ア	特別地域	4
(ア)	特別保護地区	5
(イ)	第1種特別地域	9
(ウ)	第2種特別地域	15
(エ)	第3種特別地域	21
イ	関連事項	27
(ア)	普通地域	27
ウ	面積内訳	29
3	施設計画	31
(1)	保護施設計画	31
(2)	利用施設計画	32
ア	単独施設	32
イ	道路	35
(ア)	車道	35
(イ)	歩道	36

1 基本方針

やんばる国立公園は、琉球列島の地史的形成過程を反映して多くの固有種が集中して分布する国内最大規模の亜熱帯照葉樹林の生態系を中心として、高湿度の山地に発達する雲霧林、溪流植物群落などの河川生態系、石灰岩地特有の植物、マングローブ生態系といった多様な生態系が複合的に一体となった景観を有している。

やんばる国立公園は、多種多様な固有又は希少な動植物が生息・生育する生態系を保護保全し、これらの自然をおそれ敬うと同時に豊かな恵みを享受しながら育まれてきた地域のくらしと文化の維持継承に寄与し、豊かな生物多様性と独特な亜熱帯森林生態系を実感できる国立公園として、保護と利用を推進するため、公園計画を定める。

(1) 保護に関する基本方針

亜熱帯照葉樹林には、オキナワトゲネズミやヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナゴガネ、オキナワセッコクをはじめとした希少種や固有種が数多く生息・生育し、これらの動植物からなる生態系を保護することが重要である。しかし、この地域の森林は、琉球王府時代から現代まで沖縄の森林資源の供給地として林業が営まれ、沖縄島の生活と産業全体を支える水資源の供給地としてダムが設置されるなど、様々な産業活動が行われてきた。さらに、この森林に侵入したマングースやノネコなどの外来生物、交通事故、捕獲採取などによる影響も受けている。また、ノグチゲラによる農作物被害も発生している。当該国立公園においては、このような背景を伴いながら現在まで残されてきた生態系の価値を維持し、産業活動との調整を行いながら、保護管理を行うことが重要である。

このため、保護に関する基本的な方針として、野生動植物が健全な状態で生息・生育でき、種の絶滅をさせないことを確保しながら、この森の再生力の範囲内で森林施業との調整を図るものとする。具体的には、高齢林及び高齢林分を含む森林を厳正に保護し、希少かつ固有な動植物の生息・生育地として重要な脊梁部の保護の連続性を保ち、溪流植物や両生類などを育む溪流環境を保護し、生態系に配慮した森林施業を行うとともに、これまで行われてきた生活、産業、開発行為の結果、照葉樹林や河川生態系が劣化している場合には、自然再生・修復を行う。

そして、生態系に悪影響を及ぼす外来生物を防除し、捕獲採取や交通事故などの人為的な影響を防ぐものとする。

ア 規制計画

(ア) 特別地域

a 特別保護地区

伊部岳^{いぶだけ}周辺、西銘岳^{にしめだけ}周辺の一帯は高齢林で大径木を有し、希少かつ固有な動植物の重要な生息・生育地となっている。与那覇岳^{よなはだけ}は動植物の重要な生息・生育地であるとともに、雲霧林が発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存

在する。辺戸岳^{へとだけ}はカルスト地形からなる特有の景観を有している。これらの生物の多様性及び優れた景観を保護するため特別保護地区とする。

b 第1種特別地域

脊梁山地は希少かつ固有な動植物の重要な生息・生育地となっており、森林内の溪流には熱帯・亜熱帯に特徴的な溪流植物が分布し、当該地域に固有な両生類の産卵・生息環境となっている。ネクマチヂ岳^{だけ}周辺の古生層石灰岩地はカルスト地形を有し特有の植物が生育している。辺戸岬^{へとみさき}は海食崖の景観が優れている。これらの生物の多様性及び優れた風致を維持するため、第1種特別地域として保護する。

c 第2種特別地域

特別保護地区又は第1種特別地域と連続した亜熱帯照葉樹林で、希少かつ固有な動植物の生息・生育場であり、生態系の保護と森林施業と調整を図る地域。海岸の自然海岸は海岸植生が発達し、砂浜はウミガメの産卵場所となっている。こうした良好な風致を保護するため、第2種特別地域とする。

d 第3種特別地域

第1種特別地域又は第2種特別地域に接続し、リュウキュウマツの人工林を中心とする森林が広がっている。また、当該地の自然環境と山地等を利用して農業が営まれており、こうした地域の風致の維持を図るため、第3種特別地域とする。

(イ) 普通地域

山地と海、人々の暮らしが織りなす風景を維持するため、普通地域として特別地域をとりまく風景の保全を図る。

(2) 利用に関する基本方針

やんばる国立公園は、亜熱帯照葉樹林や溪流景観、そこに生息・生育する多種多様な固有又は希少な動植物、海食崖の海岸やウミガメが産卵する砂浜、カルスト地形、これらの自然に育まれ継承されてきた人々の暮らしと文化などを公園の資源として持つ。これらの資源を活用し、当該地域の野生生物が多く生息・生育する雰囲気を感じ、亜熱帯照葉樹林の森の豊かさ（生物多様性）を実感できる国立公園とすると同時に、利用にあたって、利用者の集中による雰囲気の低下や自然の荒廃に留意し、一般利用者向けの自然探勝だけでなく質の高い自然体験の機会を設ける。

利用にあたって、捕獲・採取による影響が懸念される昆虫や両生は虫類、植物が多く存在し、無秩序な林内の利用と利用者の集中による自然の荒廃を防ぐため、自然の状況に応じて少人数制やガイドの同行など利用に際してのルールを検討するとともに、マナーの周知・徹底を図り、資源を保全しながら持続的な利用を行うこととする。野生動物の観察は、当該国立公園の利用形態の一つであるが、観察による動物への影響を考慮し、利用のルールの検討を行う。

また、暮らしや文化の資源を守るため、来訪者が住民の生活やしきたり、風習を冒さぬよう配慮する必要がある。

(3) 施設計画

(ア) 単独施設

亜熱帯照葉樹林やカルスト地形での自然探勝、海食崖の海岸の眺望、マングローブ林や干潟の生きもの観察などを行うために必要な施設計画を配置する。

当該地域において既に整備されている園地、宿泊施設、キャンプ場等も公園利用に資する施設は計画に位置づける。

固有又は希少な動植物の生息・生育地である亜熱帯照葉樹林における利用施設の整備・維持管理にあたっては、利用による自然環境への悪影響に留意する。

(イ) 道路

当該国立公園の亜熱帯照葉樹林やカルスト地形、自然海岸などの当該国立公園の景観を探勝するための車道を計画に位置づける。

亜熱帯照葉樹林やカルスト地形を探勝しながら、動植物を観察し、森の豊かさを感じるための歩道を計画に位置づける。基盤である土壌は脆弱で、容易に土壌が流出し洗掘が進行することから、利用者の利用形態や自然性の状況などを勘案し、適切に歩道の整備を行う。劣化が生じる場合、路線の変更や一時的な利用の休止を行い、回復を図る。

固有又は希少な動植物の生息・生育地である亜熱帯照葉樹林における車道及び歩道の整備・維持管理にあたっては、利用による自然環境の悪影響を防止し、希少動植物の捕獲・採取、希少動物の交通事故死の防止を図るものとする。

2 規制計画

(1) 保護規制計画及び関連事項

ア 特別地域

次の区域を特別地域とする。

(表1：特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 40 林班、48 林班から 53 林班まで、55 林班、56 林班、58 林班、59 林班及び 62 林班の全部並びに 41 林班、45 林班、54 林班、57 林班、60 林班及び 61 林班の各一部 国頭郡国頭村 字安田、字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、字宜名真、字佐手、字謝敷、字楚洲、字浜、字比地、字辺戸、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部	9,381 [国 2,751 公 4,882 私 1,627 不 121]
	国頭郡大宜味村 字上原、字大兼久、字大宜味、字押川、字喜如嘉、字塩屋、字謝名城、字白浜、字田嘉里、字田港、字津波、字饒波、字根路銘、字宮城及び字屋古の各一部	2,479 [国 36 公 1,847 私 519 不 77]
	国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 2 林班の一部 国頭郡東村 字有銘、字川田、字慶佐次、字平良、字高江及び字宮城の各一部	756 [国 99 公 516 私 123 不 18]
合 計		12,616 [国 2,886 公 7,245 私 2,269 不 216]

(ア) 特別保護地区

特別地域のうち、次の区域を特別保護地区とする。

(表 2 : 特別保護地区総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村 字宜名真及び字辺戸の各一部	56 〔 国 0 〕 公 0 私 56 不 0
	国頭郡国頭村 字辺野喜の一部	192 〔 国 15 〕 公 177 私 0 不 0
	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 40 林班の全部並びに 41 林班及び 45 林班の各一部	220 〔 国 220 〕 公 0 私 0 不 0
	国頭郡国頭村 字伊地及び字与那の各一部	62 〔 国 0 〕 公 62 私 0 不 0
	国頭郡国頭村 字奥間及び字比地の各一部	256 〔 国 1 〕 公 243 私 12 不 0

	国頭郡大宜味村 字田港の一部	<table style="border: none;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">国</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">公</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">私</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">不</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> </table>		3	国	0	公	0	私	3	不	0
	3											
国	0											
公	0											
私	3											
不	0											
合 計		<table style="border: none;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">789</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">国</td> <td style="text-align: right;">236</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">公</td> <td style="text-align: right;">482</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">私</td> <td style="text-align: right;">71</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">不</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> </table>		789	国	236	公	482	私	71	不	0
	789											
国	236											
公	482											
私	71											
不	0											

(表 3 : 特別保護地区内訳表)

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)								
辺戸岳	国頭郡国頭村 字宜名真及び字辺戸の各一部	古生層石灰岩を基盤にもち、カルスト地形で、その景観は雄大である。森林は石灰岩地特有のナガミボチョウジーリュウキウガキ群落が発達している。石灰岩地特有の植物が生育しており、カルスト地形の景観とともに厳正に保護する。	56 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>0</td></tr> <tr><td>公</td><td>0</td></tr> <tr><td>私</td><td>56</td></tr> <tr><td>不</td><td>0</td></tr> </table>	国	0	公	0	私	56	不	0
国	0										
公	0										
私	56										
不	0										
辺野喜川上流部	国頭郡国頭村 字辺野喜の一部	75 年以上の照葉樹林と辺野喜川上流部の溪流環境を含む地区で、ノグチゲラやヤンバルクイナ、オキナワイシカワガエルなどの固有で希少な動植物の重要な生息・生育地であり、厳正に保護する。	192 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>15</td></tr> <tr><td>公</td><td>177</td></tr> <tr><td>私</td><td>0</td></tr> <tr><td>不</td><td>0</td></tr> </table>	国	15	公	177	私	0	不	0
国	15										
公	177										
私	0										
不	0										
伊部岳	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 40 林班の全部並びに 41 林班及び 45 林班の各一部	伊部岳 (標高 353m) の北西山麓から ^{ふんがわ} 普久川にかけて広がる照葉樹林で、75 年以上の照葉樹林をまとまって含み、ノグチゲラやヤンバルクイナなどの固有で希少な動植物の重要な生息・生育地であり、厳正に保護する。 伊部岳中腹の第 1 種特別地域との境界には推定樹齢 300 年のオキナワウラジログシも生育している。	220 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>国</td><td>220</td></tr> <tr><td>公</td><td>0</td></tr> <tr><td>私</td><td>0</td></tr> <tr><td>不</td><td>0</td></tr> </table>	国	220	公	0	私	0	不	0
国	220										
公	0										
私	0										
不	0										

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
与那川上流部	国頭郡国頭村 字伊地及び字与那の各一部	与那川上流部の標高 200m から 300m にかけて広がる 75 年以上の照葉樹林がまとまっている地区であり、ケナガネズミやリュウキュウヤマガメなどの固有で希少な動植物の生育・生息地であり、厳正に保護する。 モニタリングや学術的な研究が行われている地区である。	62 国 0 公 62 私 0 不 0
与那覇岳	国頭郡国頭村 字奥間及び字比地の各一部	沖縄島最高峰の与那覇岳(標高 503m)を中心とした標高 300m 程度までの照葉樹林である。ノグチゲラなどの固有で希少な動物の生息地として重要であるとともに、雲霧林が発達し、着生のシダ植物やラン科植物が多く存在する場所である。 核心地域であるとともに、登山者等も訪れる場所であり、固有で希少な動植物の保護と公園利用との軋轢を回避・抑制するよう厳正な保護を図る。	256 国 1 公 243 私 12 不 0
田港御嶽	国頭郡大宜味村 字田港の一部	古生層石灰岩を母岩にもつ御嶽林で、人為的干渉を受けることなく今日まで保護されてきた。沖縄における古生層石灰地域の代表的植生とみなされており、植生を厳正に保護する。	3 国 0 公 0 私 3 不 0
		合 計	789 国 236 公 482 私 71 不 0

(イ) 第1種特別地域

次の区域を第1種特別地域とする。

(表4：第1種特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)	
沖縄県	国頭郡国頭村 字宜名真及び字辺戸の各一部	31 〔 国 9 公 0 私 22 不 0 〕	
	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 58 林班及び 59 林班 の全部並びに 55 林班から 57 林班まで、60 林班及び 62 林班の各一部 国頭郡国頭村 字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、 字奥間、字佐手、字謝敷、字浜、字比地、 字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部 国頭郡大宜味村 字大宜味、字押川、字喜如嘉、字謝名城、 字田嘉里、字田港、字饒波及び字根路銘の 各一部 国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 2 林班の一部 国頭郡東村 字川田及び字平良の各一部	3,796 〔 国 798 公 2,722 私 232 不 44 〕	
	国頭郡国頭村 字安田及び字安波の各一部	441 〔 国 15 公 426 私 0 不 0 〕	

	国頭郡大宜味村 字大宜味、字押川、字饒波及び字根路銘の 各一部	149 [国 0] 公 123 私 26 不 0]
	国頭郡東村 字慶佐次の一部	11 [国 0] 公 0 私 0 不 11]
合 計		4,428 [国 822] 公 3,271 私 280 不 55]

(表 5 : 第 1 種特別地域内訳表)

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)								
辺戸岬 ^{へどみさき}	国頭郡国頭村 字宜名真及び字辺戸の各一部	海食崖地形で風衝地植生が発達している。崖から内陸部に かけては石灰岩特有のカルスト地形を示し、平坦部にはコウ ライシバの芝草原が広がっている。変化のある海岸景勝地で ある。断崖景観の保全に留意して風致を維持する。	31 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>国</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>0</td> </tr> </table>	国	9	公	0	私	22	不	0
国	9										
公	0										
私	22										
不	0										

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)								
脊梁山地	<p>国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 58 林班及び 59 林班の全部並びに 55 林班から 57 林班まで、60 林班及び 62 林班の各 一部</p> <p>国頭郡国頭村 字安波、字伊地、字宇嘉、字宇良、 字奥、字奥間、字佐手、字謝敷、字 浜、字比地、字辺野喜、字辺土名及 び字与那の各一部</p> <p>国頭郡大宜味村 字田嘉里、字謝名城、字喜如嘉、字 饒波、字大宜味、字根路銘、字押川 及び字田港の各一部</p> <p>国頭郡東村内 国有林沖縄森林管理署 2 林班の一部</p> <p>国頭郡東村 字川田及び字平良の各一部</p>	<p>標高 250m 程度以上の山地で、一帯に照葉樹林が広がり、オ キナワトゲネズミ、ケナガネズミ、ノグチゲラ、ヤンバルク イナなどの重要な生息地となっている。谷部の溪流には、溪 流植物が生育し、オキナワイシカワガエルやナミエガエル、 ホルストガエル、リュウキュウヤマガメ、イボイモリなどの 固有で希少な両生は虫類の生息地となっている。</p> <p>主要な林道が配置されていることから、公園利用のあり方 も含めて十分な風致の維持を図るとともに、若齢林や人工林 は高齢照葉樹林への再生・誘導に努める。</p>	<p>3,796</p> <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>798</td> </tr> <tr> <td>公</td> <td>2,722</td> </tr> <tr> <td>私</td> <td>232</td> </tr> <tr> <td>不</td> <td>44</td> </tr> </table>	国	798	公	2,722	私	232	不	44
国	798										
公	2,722										
私	232										
不	44										

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
とうぶ 東部地域	国頭郡国頭村 字安田及び字安波の各一部	脊梁山地の東側に広がる標高 100m～200m 程度の丘陵地で、樹齢 40 年～60 年以上の照葉樹林である。ノグチゲラやヤンバルクイナ、ホントウアカヒゲ、リュウキュウヤマガメなどの固有で希少な動植物の生育・生息地である。 固有動植物の生息地として風致を維持するとともに、若齢林の高齢林への誘導に努める。	441 国 15 公 426 私 0 不 0
ネクマチヂ しおやふじ 岳、塩屋富士	国頭郡大宜味村 字大宜味、字押川、字饒波及び字根路銘の各一部	古生層石灰岩からなるネクマチヂ岳（標高 361m）、塩屋富士（標高 318m）を含む山地で、カルスト地形となっている。山頂部の雲霧林や風衝地、土壌の特殊性などから特殊な環境に適応した、希少な植物が多く生育している。 登山道が整備されており、貴重な植生の保全に留意して風致の維持を図る。	149 国 0 公 123 私 26 不 0
慶佐次	国頭郡東村 字慶佐次の一部	げさしがわ 慶佐次川の河口に位置するオヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギからなるマングローブ群落で、特異な景観を有している。干潮時にはシオマネキ類やミナミトビハゼなどの水生生物が観察できる。 カヤックや木道からの動植物の観察が行われる利用拠点となっている。	11 国 0 公 0 私 0 不 11

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
		合 計	4,428 [国 822] 公 3,271 私 280 不 55]

(ウ) 第2種特別地域

次の区域を第2種特別地域とする。

(表6：第2種特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村 字奥、字宜名真及び字辺戸の各一部	241 〔 国 16 公 61 私 158 不 6 〕
	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 55 林班から 57 林班 までの各一部 国頭郡国頭村 字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、 字宜名真、字佐手、字謝敷、字浜、字比地、 字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部 国頭郡大宜味村 字喜如嘉、字謝名城及び字田嘉里の各一部	2,318 〔 国 342 公 1,334 私 608 不 34 〕
	国頭郡国頭村 字安田の各一部	131 〔 国 0 公 112 私 17 不 2 〕
	国頭郡国頭村 字安田の一部	23 〔 国 4 公 0 私 19 不 0 〕
	国頭郡国頭村 字安波の一部	184 〔 国 20 公 133 私 9 不 22 〕

国頭郡東村 字高江の一部	127 〔 国 10 公 24 私 89 不 4 〕
国頭郡大宜味村 字上原、字大宜味、字大兼久、字押川、字 塩屋、字田港、字饒波、字根路銘及び字屋 古の各一部	324 〔 国 0 公 27 私 277 不 20 〕
国頭郡大宜味村 字白浜及び字宮城の各一部	68 〔 国 5 公 3 私 57 不 3 〕
国頭郡大宜味村 字大宜味、字押川、字田港及び字根路銘の 各一部 国頭郡東村 字川田及び字宮城の各一部	80 〔 国 24 公 41 私 8 不 7 〕
国頭郡大宜味村 字津波の一部 国頭郡東村 字有銘、字慶佐次及び字平良の各一部	558 〔 国 4 公 536 私 16 不 2 〕
合 計	4,054 〔 国 425 公 2,271 私 1,258 不 100 〕

(表 7 : 第 2 種特別地域内訳表)

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
宜名真、辺戸、奥	国頭郡国頭村 字奥、字宜名真及び字辺戸の各一部	辺戸岳の特別保護地区や辺戸岬の第 1 種特別地域に隣接する地区で、石灰岩からなるこれらの特異な景観を一帯として保全する。園地などの視点場や国道 58 号線からの眺望などに留意する。 北東の海岸に点在する砂浜は、ウミガメの産卵地となっており、自然海岸の保全に留意して風致を維持する。	241 国 16 公 61 私 158 不 6
脊梁山地	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 55 林班から 57 林班までの各一部 国頭郡国頭村 字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥、字奥間、字宜名真、字佐手、字謝敷、字浜、字比地、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部 国頭郡大宜味村 字喜如嘉、字謝名城及び字田嘉里の各一部	脊梁山地の西側に、標高 150m から 300m 程度に位置する照葉樹林で、座津武川 <small>ぎつんがわ</small> や奥川 <small>おくがわ</small> 、伊江川 <small>いえがわ</small> 、辺野喜川 <small>べのきがわ</small> 、佐手川 <small>さてがわ</small> 、与那川 <small>よながわ</small> 、奥間川 <small>おくまがわ</small> 、比地川 <small>ひじがわ</small> 、田嘉里川 <small>たかざとがわ</small> を含み、これらの河川環境の保全に留意する。オキナワトゲネズミやケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、オキナワイシカワガエル、ナミエガエルなどの固有で希少な動植物の生息・生育地となっている。 これらの動植物の生息・生育地の保全に留意して風致の維持を図る。	2,318 国 342 公 1,334 私 608 不 34
安田、伊部	国頭郡国頭村 字安田の各一部	スダジイが優占する二次林を主とする照葉樹林である。ヤンバルクイナが多く生息する地区であり、観察を目的とした利用者が訪れている。固有動物の生息に留意して保全を図るとともに、交通事故の防止等にも留意する。	131 国 0 公 112 私 17 不 2

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)								
イシキナ崎、 ジチ浜	国頭郡国頭村 字安田の一部	段丘崖と砂浜からなる自然海岸で、ジチ浜はウミガメの産卵地となっている。海岸植生とウミガメの生息地の保全に留意して風致の維持を図る。	23 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>国</td><td>4</td></tr> <tr><td>公</td><td>0</td></tr> <tr><td>私</td><td>19</td></tr> <tr><td>不</td><td>0</td></tr> </table>	国	4	公	0	私	19	不	0
国	4										
公	0										
私	19										
不	0										
安波	国頭郡国頭村 字安波の一部	安波川流域の丘陵地に広がる照葉樹林で、ノグチゲラやヤンバルクイナなども生息している。 既存の利用施設を拠点として、照葉樹林や溪流などを利用した自然探勝が行われている地区である。	184 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>国</td><td>20</td></tr> <tr><td>公</td><td>133</td></tr> <tr><td>私</td><td>9</td></tr> <tr><td>不</td><td>22</td></tr> </table>	国	20	公	133	私	9	不	22
国	20										
公	133										
私	9										
不	22										
新川	国頭郡東村 字高江の一部	新川川の河川景観と段丘崖の自然海岸景観を有する。河川環境の保全に留意して、風致の維持を図る。	127 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>国</td><td>10</td></tr> <tr><td>公</td><td>24</td></tr> <tr><td>私</td><td>89</td></tr> <tr><td>不</td><td>4</td></tr> </table>	国	10	公	24	私	89	不	4
国	10										
公	24										
私	89										
不	4										

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
ネクマチヂ 岳、塩屋富士	国頭郡大宜味村 字上原、字大宜味、字大兼久、字押 川、字塩屋、字田港、字饒波、字根 路銘及び字屋古の各一部	古生層石灰岩のカルスト地形を有し、希少な植物が多く生 育している。饒波川 <small>みうはがわ</small> の上流部などには、オキナワイシカワガ エル、ナミエガエル、ハナサキガエルが生息している。 ドリーネや鍾乳洞などの地形や希少植物の生育環境の保全 に留意して風致の維持を図る。	324 [国 0 公 27 私 277 不 20]
塩屋湾	国頭郡大宜味村 字白浜及び字宮城の各一部	塩屋湾の入り江と照葉樹林やリュウキュウマツ林による景 観が特徴である。これらの景観に留意して風致の維持を図る。	68 [国 5 公 3 私 57 不 3]
ぶながや湖、 福上湖	国頭郡大宜味村 字大宜味、字押川、字田港及び字根 路銘の各一部 国頭郡東村 字川田及び字宮城の各一部	ダム湖周囲の照葉樹林からなり、利用拠点からの景観に留 意して風致の維持を図る。	80 [国 24 公 41 私 8 不 7]

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
平良、慶佐次、津波山	国頭郡大宜味村 字津波の一部 国頭郡東村 字有銘、字慶佐次及び字平良の各一部	<small>へなんがわ</small> 平南川、 <small>あるめがわ</small> 慶佐次川、有銘川の流域に広がる照葉樹二次林である。ノグチゲラなどの森林性の鳥類のコリドーとして風致の維持を図る。 平南川の川と滝を歩いて探勝する利用が行われている。	558 [国 4] 公 536 私 16 不 2]
		合 計	4,054 [国 425] 公 2,271 私 1,258 不 100]

(エ) 第3種特別地域

次の区域を第3種特別地域とする。

(表8：第3種特別地域総括表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村 字宜名真及び字辺戸の各一部	162 〔 国 4 公 7 私 140 不 11 〕
	国頭郡国頭村 字奥、字宜名真及び字辺戸の各一部	496 〔 国 12 公 266 私 208 不 10 〕
	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 53 林班の全部並びに 54 林班及び 56 林班の各一部 国頭郡国頭村 字奥及び字宜名真の各一部	397 〔 国 327 公 69 私 0 不 1 〕
	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 48 林班から 52 林班までの 全部並びに 57 林班の一部 国頭郡国頭村 字奥及び字楚洲の各一部	1,000 〔 国 868 公 58 私 58 不 16 〕
	国頭郡国頭村 字安田及び字楚洲の各一部	136 〔 国 0 公 135 私 0 不 1 〕

	国頭郡国頭村 字安田の一部	8 [国 2] [公 0] [私 6] [不 0]
	国頭郡国頭村内 国有林沖繩森林管理署 59 林班から 62 林班までの各一部 国頭郡国頭村 字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥間、字佐手、字謝敷、字浜、字比地、字辺野喜、字辺土名及び字与那の各一部 国頭郡大宜味村 字大宜味、字喜如嘉、字田嘉里及び字饒波の各一部	1,114 [国 189] [公 680] [私 225] [不 20]
	国頭郡大宜味村 字白浜の一部	8 [国 0] [公 0] [私 8] [不 0]
	国頭郡大宜味村 字津波の一部 国頭郡東村 字慶佐次の一部	24 [国 1] [公 6] [私 15] [不 2]
	合 計	3,345 [国 1,403] [公 1,221] [私 660] [不 61]

(表 9 : 第 3 種特別地域内訳表)

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)								
辺戸岬	国頭郡国頭村 字宜名真及び字辺戸の各一部	辺戸岬の内陸部に広がる地区で、農地を多く含む。辺戸岳の景観の保全に留意して風致の維持を図る。	162 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>国</td><td>4</td></tr> <tr><td>公</td><td>7</td></tr> <tr><td>私</td><td>140</td></tr> <tr><td>不</td><td>11</td></tr> </table>	国	4	公	7	私	140	不	11
国	4										
公	7										
私	140										
不	11										
辺戸、奥	国頭郡国頭村 字奥、字宜名真及び字辺戸の各一部	辺戸から奥にかけて広がる照葉樹林である。農地が点在し、その間に大径木を含む森が残されている。脊梁山地につながる、ヤンバルクイナなどの動植物のコリドーとして風致の維持を図る。国道 58 号線ではヤンバルクイナなどの固有動物の交通事故の防止等に留意する。	496 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>国</td><td>12</td></tr> <tr><td>公</td><td>266</td></tr> <tr><td>私</td><td>208</td></tr> <tr><td>不</td><td>10</td></tr> </table>	国	12	公	266	私	208	不	10
国	12										
公	266										
私	208										
不	10										
座津武川及び奥川中上流部	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 53 林班の全部並びに 54 林班及び 56 林班の各一部 国頭郡国頭村 字奥及び字宜名真の各一部	西銘岳と尾西岳 ^{おにしだけ} の山麓に広がるスダジイが優占する二次林とリュウキュウマツ林である。座津武川や奥川を含み、これらの河川環境の保全に留意する。 ケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、オキナワイシカワガエル、ナミエガエルなどの固有で希少な動物が生息しており、これらの生息に留意して風致の維持を図る。	397 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>国</td><td>327</td></tr> <tr><td>公</td><td>69</td></tr> <tr><td>私</td><td>0</td></tr> <tr><td>不</td><td>1</td></tr> </table>	国	327	公	69	私	0	不	1
国	327										
公	69										
私	0										
不	1										

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
尾西岳東部	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 48 林班から 52 林班までの全部並びに 57 林班の 一部 国頭郡国頭村 字奥及び字楚洲の各一部	尾西岳の北部から東部に広がる照葉樹林と隣接する自然海岸で構成される。植生はリュウキュウマツの人工林が主体をなしている。自然海岸の砂浜は、ウミガメの産卵地になっている。県道 70 号線ではヤンバルクイナなどの固有動物の交通事故の防止等に留意する。	1,000 [国 868] 公 58 私 58 不 16]
楚洲、安田	国頭郡国頭村 字安田及び字楚洲の各一部	スダジイが優占する二次林を主とする照葉樹林である。ヤンバルクイナが多く生息する地区であり、観察を目的とした利用者が訪れている。固有動物の生息に留意して保全を図る	136 [国 0] 公 135 私 0 不 1]
<small>あだがしま</small> 安田ヶ島	国頭郡国頭村 字安田の一部	安田の沖合 400m ほどに位置する島である。サンゴ礁に囲まれており、カヤックによる利用が行われている。	8 [国 2] 公 0 私 6 不 0]

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
脊梁山地	国頭郡国頭村内 国有林沖縄森林管理署 59 林班から 62 林班までの各一部 国頭郡国頭村 字伊地、字宇嘉、字宇良、字奥間、 字佐手、字謝敷、字浜、字比地、字 辺野喜、字辺土名及び字与那の各一 部 国頭郡大宜味村 字大宜味、字喜如嘉、字田嘉里及 び字饒波の各一部	脊梁山地の西側の山麓に位置し、照葉樹林に囲まれた農地を含む地区である。ヤンバルクイナやノグチゲラなども生息していることから、これらの生息に留意して風致の維持を図る。	1,114 [国 189 公 680 私 225 不 20]
塩屋湾	国頭郡大宜味村 字白浜の一部	塩屋湾の入り江と照葉樹林やリュウキュウマツ林による景観が特徴である。これらの景観に留意して風致の維持を図る。	8 [国 0 公 0 私 8 不 0]
慶佐次、津波	国頭郡大宜味村 字津波の一部 国頭郡東村 字慶佐次の一部	慶佐次川及び津波川 ^{つはがわ} 流域に広がる照葉樹二次林を主体とする森林である。ノグチゲラなどの森林性の鳥類のコリドーとして森林の維持を図る。	24 [国 1 公 6 私 15 不 2]

名称	区 域	地区の概要	面積 (ha)
		合 計	3,345 [国 1,403] 公 1,221 私 660 不 61]

イ 関連事項

(ア) 普通地域 普通地域の区域は、次のとおりである。

(表10：普通地域表)

都道府県名	区 域	面積 (ha)
沖縄県	国頭郡国頭村 字安田、字安波、字宜名真、字楚洲、字浜、字比地及び字辺戸の各一部	887 〔 国 23 公 414 私 389 不 61 〕
	国頭郡大宜味村 字大保、字塩屋、字白浜、字田港、字津波、字宮城及び字屋古の各一部	85 〔 国 15 公 10 私 54 不 6 〕
	国頭郡東村 字川田、字慶佐次及び字高江の各一部	34 〔 国 13 公 3 私 17 不 1 〕
陸域合計		1,006 〔 国 51 公 427 私 460 不 68 〕
陸域公園区域の地先海面の一部		3,670
合 計		4,676

ウ 面積内訳

(ア) 地域地区別土地所有面積

(表 11：地域地区別土地所有面積総括表)

(単位：面積 ha、比率%)

地域区分		特別地域																普通地域 (陸域)				合計 (陸域)				海域公 園地区	普通地域 (海域)	合計 (海域)			
地種区分		特別保護地区				第1種				第2種				第3種																	
土地所有別		国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不	国	公	私	不						
沖 縄 県	土地所有 別面積	236	482	71	0	822	3,271	280	55	425	2,271	1,258	100	1,403	1,221	660	61	51	427	460	68	2,937	7,672	2,729	284						
	地種区分 別面積 (比率)					4,428 (32)				4,054 (30)				3,345 (25)																	
	地域地区 別面積 (比率)	789 (6)																				11,827 (87)									
	地域別 面積 (比率)																	12,616 (93)				1,006 (7)				13,622 (100)				0	3,670

(表 12 : 地域地区別市町村別面積総括表)

(単位 : ha)

地域地区		特別地域					普通地域 (陸域)	合計 (陸域)	海域公園 地区※	普通地域 (海域) ※	合計 (海域) ※
市町村名		特保	第 1 種	第 2 種	第 3 種	小計					
沖縄 県	国頭村	786	2,759	2,642	3,194	9,381	887	10,268			
	大宜味村	3	1,377	962	137	2,479	85	2,564			
	東村	0	292	450	14	756	34	790			
合計		789	4,428	4,054	3,345	12,616	1,006	13,622	0	3,670	3,670

3 施設計画

(1) 保護施設計画

保護施設計画を次のとおりとする。

(表 13 : 保護施設表)

番号	種 類	位 置	整 備 方 針
1	自然再生施設	沖縄県国頭郡国頭村	若齢照葉樹林等について、高齢照葉樹林への再生・誘導を行うとともに、流域の再生を図る。
2	自然再生施設	沖縄県国頭郡大宜味村	若齢照葉樹林等について、高齢照葉樹林への再生・誘導を行うとともに、流域の再生を図る。
3	自然再生施設	沖縄県国頭郡東村	若齢照葉樹林等について、高齢照葉樹林への再生・誘導を行うとともに、流域の再生を図る。

(2) 利用施設計画

ア 単独施設

単独施設を次のとおりとする。

(表 14：単独施設表)

番号	種類	位置	整備方針
1	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (辺戸)	東シナ海と太平洋を望みながらトウクジラの観察ができる沖縄島最北端の岬において、風景や自然探勝のための園地として、岬周辺の景観及び植生保護に留意して駐車場、トイレ、園路等を整備する。
2	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (宇佐浜)	辺戸岬や辺戸岳を展望する視点場として、展望台、園路、駐車場等を整備する。
3	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (宜名真)	古生層石灰岩を基盤にもつカルスト地形の景観を眺望するための園地として、駐車場、トイレ、園路等を整備する。
4	博物展示施設	沖縄県国頭郡国頭村 (宜名真)	熱帯カルスト地形に関連した展示等を行い、当該地域の自然的重要性を学ぶ施設を整備する。
5	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (茅打 ^{かやうち} バンタ)	断崖と海の礁斜面がおりなす風景を眺望するための園地として、駐車場、トイレ、園路等を整備する。
6	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (奥)	やんばる地域の集落景観や猪垣などの暮らしの遺構等を探勝する園地として整備する。
7	宿舎	沖縄県国頭郡国頭村 (辺野喜)	やんばる地域の公園利用者の宿泊施設として、野生動植物の生息・生育に留意して整備する。
8	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (安田)	伊部岳及び安田周辺地域の自然探勝及びヤンバルクイナ生態観察のための園地として整備する。
9	園地	沖縄県国頭郡国頭村 (幸 ^{こうちばる} 地原)	照葉樹林及び海浜の自然探勝のため、及び炭焼き等の文化を体験できる園地を整備する。

10	園地	沖縄県国頭郡国頭村（辺土名）	照葉樹林に囲まれ野生動植物を観察することにより、やんばるの森の豊かさを感じられる拠点として園地を整備する。
11	園地	沖縄県国頭郡国頭村（安波）	照葉樹林の景観や野生動植物の観察によりやんばるの森の豊かさを感じられる拠点として園地を整備する。
12	宿舎	沖縄県国頭郡国頭村（安波）	照葉樹林に囲まれ野生動植物に出会うことができ、やんばるの森の豊かさを感じながら過ごす拠点として、公園利用者のための宿泊施設を整備する。
13	野営場	沖縄県国頭郡国頭村（安波）	照葉樹林に囲まれ野生動植物に出会うことができ、やんばるの森の豊かさを感じながら過ごす拠点として、公園利用者のための野営場を整備する。
14	園地	沖縄県国頭郡国頭村（比地）	比地川の河川周辺の動植物や野鳥観察などの自然探勝ができる園地として整備する。
15	野営場	沖縄県国頭郡国頭村（比地）	比地川と周辺の照葉樹林に囲まれて、やんばるの自然を感じながら過ごせる野営場として整備する。
16	園地	沖縄県国頭郡大宜味村（田嘉里）	田嘉里川の河川周辺の動植物や野鳥観察などの自然探勝ができる園地として整備する。
17	野営場	沖縄県国頭郡大宜味村（田嘉里）	田嘉里川と周辺の照葉樹林に囲まれて、やんばるの自然を感じながら過ごせる野営場として整備する。
18	園地	沖縄県国頭郡大宜味村（ ^{むたばる} 六田原）	塩屋湾を眺望するための視点場として、展望台、駐車場等を整備する。
19	園地	沖縄県国頭郡大宜味村（塩屋湾）	塩屋湾周辺の自然探勝のための園地として整備する。
20	園地	沖縄県国頭郡大宜味村（津波）	ター滝周辺の自然探勝のための園地として整備する。
21	園地	沖縄県国頭郡東村（新川）	東海岸の展望利用及び新川周辺地域の自然探勝のための園地として整備する。
22	園地	沖縄県国頭郡東村（ ^{ふくじ} 福地）	散策や周遊船の利用等により、照葉樹林や動植物が観察できる自

			然探勝のための園地として整備する。
23	園地	沖縄県国頭郡東村（慶佐次）	カヌーや木道の利用により、慶佐次のマングローブ林や干潟の生物観察を行うための園地として、園路、トイレ、駐車場、案内所等を整備する。

イ 道路

(ア) 車道

車道を次のとおりとする。

(表 15：道路（車道）表)

番号	路線名	区 間	主要経過地	整 備 方 針
1	奥宜名真線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（奥・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（宜名真・国立公園境界）	辺戸岬	沖縄島最北端の辺戸岬、辺戸岳周辺を巡りながら東海岸へ結ぶルートとして、沿線の風景維持及び固有又は希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。
2	辺戸岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（宜名真園地入り口） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（宜名真園地）	辺戸岳	宜名真園地へ至るルートとして、森林景観及び希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。
3	<small>ひがしかいがん</small> 東海岸線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（奥・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（楚洲・国立公園境界） 起点－沖縄県国頭郡国頭村（安田・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（安田・国立公園境界）	<small>あかさき</small> 赤崎	自然海岸の多い太平洋側の東海岸を通るルートとして、海岸部の風景維持及び希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。
4	<small>やんばる</small> 山原横断線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（与那・国立公園境界） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（ <small>おくよな</small> 奥与那林道合流点）	脊梁山地	脊梁山地を通りながら東西を結ぶルートとして、森林景観及び希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。

(イ) 歩道

歩道を次のとおりとする。

(表 16：道路（歩道）表)

番号	路線名	区 間	主要経過地	整 備 方 針
1	伊部岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（伊部岳登山口・歩道合流点） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（伊部岳）	伊部岳	亜熱帯照葉樹林の自然や生活の遺構を探勝する歩道として、森林景観、固有又は希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。【登山道】
2	安田線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（安田幸地原） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（伊部岳登山口・歩道合流点）	安田集落	ウミガメの産卵する海浜や亜熱帯照葉樹林の自然、ヤンバルクイナを観察する歩道として、森林景観、固有又は希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。【探勝歩道】
3	与那覇岳線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（与那覇岳登山口） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（与那覇岳）	与那覇岳	やんばる地域の核心部である与那覇岳登山のための歩道として、森林景観、固有又は希少な動植物の生息・生育及び植生保護等に留意して整備・維持管理を図る。【登山道】
4	安波線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（やんばる学びの森） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（安波集落）	やんばる学 びの森	亜熱帯照葉樹林の自然や溪流周辺の動植物を観察する歩道として、森林景観、固有又は希少な動植物の生息・生育に留意して整備・維持管理を図る。【探勝歩道】
5	比地大滝線	起点－沖縄県国頭郡国頭村（比地大滝入口） 終点－沖縄県国頭郡国頭村（比地大滝）	比地大滝	比地川の河川周辺の植物や野鳥などを観察しながら比地大滝へ至る自然探勝歩道として、周囲の森林景観に留意して整備・維持管理を図る。【探勝歩道】
6	ネクマチヂ岳塩屋富士線	起点－沖縄県国頭郡大宜味村（ネクマチヂ岳登山口） 終点－沖縄県国頭郡大宜味村（六田原）	ネクマチヂ 岳、塩屋富士	石灰岩の山地であるネクマチヂ岳・塩屋富士の登山のための歩道として、固有又は希少な動植物の生息・生育及び植生保護等に留意して整備・維持管理を図る。【登山道】
7	<small>たまつじやま</small> 玉辻山線	起点－沖縄県国頭郡東村（福地ダム） 終点－沖縄県国頭郡大宜味村（大国林道）	玉辻山	玉辻山登山のための歩道として、固有又は希少な動植物の生息・生育及び植生保護等に留意して整備・維持管理を図る。【登山道】

この資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 20 万分 1 地勢図、2 万 5 千分 1 地形図を複製したものである。(承認番号 平 27 情復、第 201 号)